

## 臨時国立天文台光赤外専門委員会 議事録

日時：2010年8月20日(月) 13時-15時45分

場所：国立天文台(三鷹) すばる棟 2F 会議室 (ハワイ観測所とTV接続)

出席者：

(委員)

伊藤洋一、長田哲也、山田亨、吉田道利、泉浦秀行、市川伸一、  
竹田洋一、山下卓也、臼田知史(TV)

(陪席プロジェクト長等)

家正則、櫻井隆、高見英樹(TV)、水本好彦

(オブザーバー)

沖田喜一、観山正見

議事

### 1. 岡山観測所の将来に関して

岡山天体物理観測所の将来像に関して国立天文台執行部から提案されている試案(資料1)について本委員会としての意見を答申する事が求められているが、これについての議論が行われた。特に「京大望遠鏡完成後の平成27年度以降は観測所の土地、建物、望遠鏡・観測装置は国立天文台の設備としては継続しない方向も含めて検討に入る」という項目が焦点の議題になり、前々日の光赤天連シンポジウムでユーザーから出された声(資料2)も踏まえて様々な意見が出されたが、以下のような結論に落ち着いた。

―― この試案は(読み方によっては不安を感じさせる一面もあるが)

確定的な書き方でなく柔軟性もあり、境界条件の不確定な現状を考えると現実的にはリーズナブルと考えられ、本委員会は基本的に支持する。国立天文台はこの方向で当該大学等との交渉など具体的検討を始めてほしい。

―― 一方、光赤天連シンポジウムでコミュニティ全体の意志がはっきりした点もあるので(たとえば岡山74インチ鏡の処遇等は様々な意見があるので別としても、観測所としての土地建物などのインフラについては今後も引き続き全国共同利用機関としての国立天文台が維持管理して天文学の研究教育の裾野を広げる場として確保しておいてもらいたいというのがほぼ共通の希望)これらの声にも国立天文台側は配慮してほしいと本委員会からも要望する。

この基本線に沿って山下委員長と山田副委員長(光赤天連委員長)の両名が中心となって天文台案に対する本委員会としての意見書をまとめ、9月24日の光赤天連総会で紹介して改

めてコミュニティの確認を取った後に（必要なら改訂を施し）正式に天文台執行部に提出する。

## 2. TMT(推進)小委員会について

前回(8月9日)の委員会で提議されて立ちあげることが了承されたTMT(推進)小委員会の設置趣旨や具体的なミッションの内容を記した提案書案(資料3)が山下委員長から説明された。TMTプロジェクト室との関連における本小委員会の存在意義や役割について議論がなされ、また提案書の細かい文言や提案書としての長さについての意見は出されたが、基本的な内容は承認された。改訂して正式な提案書を作成し、研究企画委員会と運営会議に提出し承認を得た上で設置が認められる見通し。また委員の人選をどうするかについても意見の交換があった。光赤天連からの推薦者(9月末から10月始めにかけて会員の投票等で選ぶ)リストを基にして次回の光赤外専門委員会で選任する予定。またこの話題に関連してTMT計画の最新の動向について家TMTプロジェクト室長から報告があった。

## 次回の委員会日程について

次回の光赤外専門委員会は11月下旬から12月初旬を念頭に置いていたがTMT(推進)小委員会の立ち上げのタイミングともからんでくるので、場合によってはもっと早めて10月以降の適当な時期の開催になる可能性もある。これについては委員長から追って連絡がなされる予定。

## 配付資料

- (1)岡山天体物理観測所の今後の運用方針と観測所長人事について  
(平成22年5月7日版で前回と同じもの)
- (2)2010年光赤天連シンポジウム第一部質疑応答・コメントの議事録
- (3)TMT(推進)小委員会設置の提案書(案)